

幼保小中一貫教育

2016 プロジェクト in 阿久比



平成 28 年 10 月 27 日 (木)
阿久比町幼保小中一貫教育プロジェクト



阿久比町マスコットキャラクター
アグピー

これが阿久比町の一貫教育プロジェクトだ!

町民全てが指導者に!



事務局

一貫教育プロジェクトの全体方針を作成し、各部会間の調整等を行う。

阿久比町全体を学舎に!



めざす15歳の生徒像

自らを律し、自ら実践していく生徒
「生きる力」を身につけた生徒

研究部

家庭学習の習慣化、基礎基本の定着、学習意欲の向上に向けた研究実践を進める。

幼保小接続部

幼稚園・保育園と小学校の円滑な接続を図る。
就学までの子育て支援を行う。



生活・健康部

保護者、地域とともに子どもの生活や健康を支える活動を展開する。

小中接続部

小学校と中学校の円滑な接続を図る。
「小中で育てたい力」に関わる授業実践を進める。



大人が変われば、子どもも変わる!

理論より実践!
「実践あるのみ」

梅の花は、阿久比町の花であり、多くの園・学校の園章・校章のデザインで使われています。

第4期「進化・深化」の重点取組

研究部

- ・学びウィークの実施, 学習の手引きの活用
- ・土曜学習の実施



幼保小接続部

- ・小学校入門期カリキュラムの改訂
- ・幼保統一カリキュラムの活用とアプローチカリキュラムの改訂



生活・健康部

- ・ノーメディアデーの実施(毎月第1・3水曜日)



小中接続部

- ・小学6年生によるサマースクールと部活動体験・見学の実施
- ・中学生の先輩の話を聞く会の開催



阿久比町の幼保小中一貫教育

阿久比町の幼保小中一貫教育は、こうして始まりました。



阿久比町が幼保小中一貫教育を始めて12年目を迎えました。今では「一貫教育」というと、9年間を通じて系統的な教育課程を編成して行う「小中一貫教育」を指すようになり、私たち、阿久比町が行っている教育は「連携教育」と呼ばれるようになりました。

呼び方はどうあれ、町全体で子どもたちを大切に育てたい。そのために、大人が連携して取り組もう。このような思いから阿久比町の幼保小中一貫教育はスタートし、これを推進するためのプロジェクトが始まったのです。

この町を挙げた取組は、鳥居久男前教育長の以下のような思いから始まりました。

正直者、一生懸命努力する子どもが生きる学校にしたい。



どの学校、学級にも、授業についていけないにもかかわらず、黙って席に座り、まじめに授業に臨んでいる子どもがいます。この子どもは、これまでのどこかでつまずき、それでもまじめに一生懸命努力を続け、今日まで至っているのです。中学生になってから、これまでの積み残しを取り戻そうといくらがんばっても、なかなか成果は見られません。

阿久比町では、このような正直に一生懸命努力しているにもかかわらず報われない子どもに、真正面から関わっていきたいと考え、幼保小中一貫教育を立ち上げることにしました。

「木の芽が伸びるのは柔らかいから、つぼみが開くのも柔らかいから」と相田みつを氏が言っているように、柔軟な子どものために、自立への基礎を築く時期である0歳～15歳の時期を大切にしたいと考えました。

それぞれの段階で、本当に責任を果たしているかを見極めなければ…。

子どもの成長は、「オギャー」と産声をあげた瞬間から始まります。その時から、周りの大人は、その子どもの成長に対して、責任を果たしていく必要があります。幼稚園や保育園に入園するまでの家庭の責任、幼保小中でかかわる保育者や教員の責任、それぞれの立場や段階でその責任は違います。その時期に身につけるべきことが確実に身につけているかどうかを見極める必要があります。

例えば、小学校2年生で、その学年で身につけさせるべき学力、体力、道徳性、そして学習習慣や生活習慣をきちんと身につけさせて、3年生に送り出しているか。それが教育であると考えます。

そこで、阿久比町幼保小中一貫教育では、各年齢に応じた「欠落なき教育」の実現をめざすこととしました。



幼保、小、中に見えない壁がある。これを打ち破らなければ…。

幼稚園や保育園、小学校、中学校を単独に見れば、確かにそれぞれがしっかりと子どもの成長を考えた指導をしています。しかし、幼稚園から中学校の12年間（保育園からは15年間）を通して見るとどうでしょう。

例えば、3月まで年長児として、給食の準備等できることは自分たちでやり、また年下の園児の面倒を見ていた子どもが、4月に小学校へ入学すると、すべて上級生にやってもらおう場面を目にします。幼稚園や保育園でできていたことに、さらに積み上げるという発想が薄いようです。

子どもは、年齢が上がるにつれて判断力が高まります。しかし、学校でのきまり・規則は、小学校で緩く、中学校で厳しいのが一般的です。逆ではないでしょうか。

阿久比町幼保小中一貫教育では、幼稚園や保育園、小学校、中学校の間のずれや逆転のない「段差なき教育」を進めたいと考えました。



1町1中学校という利点を生かしたい。



阿久比町には中学校が1校しかありません。つまり、阿久比町に住む子どもたちのほとんどが、阿久比中学校で学ぶのです。町内4小学校では、それぞれが地域の特色を生かした教育を進めています。しかし、中学1年生のスタート時点で、子どもの力がまちまちでは、中学校での指導の効果を上げることはできません。それは、小学校の指導を画一的にすることではありません。それぞれの特色を生かしつつも、最低限身につけさせるべきことは、しっかり身につけさせることです。これは、幼稚園や保育園でも同じことが言えます。もちろん家庭教育も同様です。

そこで阿久比町幼保小中一貫教育では、幼稚園や保育園間、小学校間、さらに学級間で「落差なき教育」が進められることが大切であると考えました。

義務教育の出口である15歳の生徒像を明確にもつことが大切である。



以上の3つの教育を中心とした、幼保小中一貫教育を推進するためには、目標を共有することが大切であると考えました。そこで、まず義務教育の出口である15歳のあるべき生徒像を描くことから始めました。

＜めざす生徒像＞阿久比町の15歳のすべての生徒に求める姿

- 自らを律し、自ら実践していく生徒
- 「生きる力」を身につけた生徒

※生きる力とは：社会で役立つ学力

社会で生きていく上で必要な人間性

社会で生きていく上で必要な健康と体力

そして、この最終目標である生徒像に至るまでの各段階・学年での姿を設定したり、阿久比町の子どもの実態を把握したりしてきました。具体的な目標、具体的な実態をもとに、具体的な手立てや取組があって、初めて理想を現実に変えることができると考えました。

幼保小中一貫教育を実行するためのプロジェクトを立ち上げよう。

阿久比町が思い描いた0歳～15歳までの一貫性のある教育を実現するためには、すべての大人が、共通の目的意識をもつ必要があります。そして、これまでの枠にとらわれず、子どもの成長過程を中心に指導を見直す必要があります。

そこで、平成17年度より阿久比町幼保小中一貫教育プロジェクトを立ち上げました。そして、何よりも、「新しいことを始めるのではない。昔から大切にしてきたことを再確認し、実行するのだ。」と確認しました。

また、子育ては、幼稚園や保育園、小学校、中学校だけで行われるものではありません。家庭や地域と協働して、初めて実現します。そこで、プロジェクトのメンバーとして、保護者はもちろん、地域代表、行政（子育て支援課・産業観光課・学校教育課）、保健センターの保健師、子育て支援センターの所長等様々な立場の方が参画しています。



幼保小中の連携、それは大人(保育者・教員)の意識改革です。

小学校教員の「あんなにいい子だったのに、中学校は何をやっているんだ」とか、中学校教員の「小学校がしっかりしてくれたら…」という言葉を目にすることがあります。これは、幼稚園や保育園と小学校、園・学校と家庭の間にも同じです。しかし、誰一人として手を抜いているわけではありません。幼保小中の連携は、まずお互いを知ることが大切であると考え、相互理解のための取組を進めることとしました。前年度、幼稚園・保育園の年長児担当保育者が小学校1年生の指導を体験したり、阿久比町に新転入した教員が、夏休みに保育園での指導を体験したりしています。

さらに、一貫性のある保育・教育を実現するために0歳から15歳までを見通して、各発達段階で身につけさせるべき内容を明らかにしました。そして、家庭用や学校用に冊子やリーフレットを作成し、活用することとしました。



一貫教育プロジェクト第4ステージのテーマは、「進化・深化」



以上のような前教育長の思いから、阿久比町の幼保小中一貫教育はスタートしました。平成17年度からの12年間で、プロジェクトの実践を通して、そのよさを保育者や教員が実感し、園・学校の壁を越えた連携が進みました。また、この活動は地域へと広がり、今では多くの方が様々な形で、園・学校での教育に携わってくださるようになりました。とてもありがたいことです。

その一方で、SNSの普及による生活環境の変化や、教育内容の変化など、私たちの取組もそれぞれの部会で見直し、修正・発展させる必要がありました。そこで、今回第4ステージのテーマを「進化・深化」とし、それぞれの部会で重点取組事項を決め、時代に合い、より子どもの成長に必要な取組となるよう考え、実践を行いました。

幼保小中一貫教育は阿久比の未来

町民全てが指導者に、阿久比町全体を学舎に!! めざすは「あぐい学園」



阿久比町民の全知力を結集し、未来を拓く子どもの保育・教育に全力で取り組みたいと願って、このプロジェクトを進めています。そのためには、阿久比町の全ての大人が指導者であるという教育理念をもつ必要があります。「子どもは大人から学び、大人も子どもから学ぶ」「大人が変われば、子どもも変わる」を合言葉に、阿久比町全体が「学舎(まなびや)」となることを願っています。

めざすは「教育のまち 阿久比」「あぐい学園」の構築です。私たちの取組に終わりはありません。今後も、幼保小中の保育者や教員、保護者、地域の方々、皆で手を携えてこの活動を推進していきたいと考えています。

一貫教育プロジェクト各部の取組

研究部

1 学びウィーク

小学校では、阿久比中学校の期末テスト週間に合わせて、一斉に家庭学習に取り組む「学びウィーク」を行っています。「10分×学年」の勉強が目標です。

| 学びウィークがんばりカード (5・6年) | | | | |
|--|--------------------|---------------|--|---------------------------|
| 年 組 番 名 前 | | | | |
| 目 標 (1日あたり学年×10分が目安です。) | | | | |
| 学習の取組の自分の目標 | | | 週の合計目標時間 | |
| | | | 分 | |
| 11月 | 時間 数の学習も心こもります。 | 10分 以内で終わる | やること (計画) やったこと (実施) | 家庭の働きかけ ※おうちで 話を聞いて |
| 18日(水) | 分 | | | 声かけ 〇つけ 一緒に その他 |
| 中 略 | | | | |
| 1日(日) | 分 | | | 声かけ 〇つけ 一緒に その他 |
| 合 計 | 分 | 〇の個 日 | ※ 「おすすめ勉強法」を参考にしながら ご家庭での働きかけをお願いします。 | |
| 自分の反省 | | | | |
| | | | | 先生印 |
| 家の人の言葉 <small>(お子さんへの励ましの言葉や効果的だった働きかけなどを記入してください。)</small> | | | | |

学びウィークがんばりカード

2 土曜学習

各小学校では、月に1回、土曜日に、「土曜学習」を実施しています。地域の方やボランティアが講師をし、学習や体験活動を行っています。



地域講師による学習支援



体験活動

中学生には、毎週土曜日の午前中に阿久比スポーツ村クラブハウスで、「阿久比サタデースクール」を実施しています。地域や学生ボランティア、小学校の先生が講師として、英語と数学の勉強を教えてくださいます。



阿久比サタデースクール

生活・健康部

1 ノーメディアデー

阿久比町では、毎月第1・3水曜日を「ノーメディアデー」としています。20時以降はテレビやゲームなどの電子機器のスイッチを消して、家族との団らんなどの時間にあて、早めに就寝することを目標としています。



学校保健委員会での劇

2 幼保小中高一斉あいさつ運動

6月と11月の中学校のテスト週間に合わせて、町内一斉にあいさつ運動を行っています。この運動には、町内の幼稚園、保育園、小学校、中学校だけでなく、阿久比高校も参加して実施しています。



ほくぶ幼稚園のあいさつ運動

3 親子ふれあいキャンペーン

10月の第3火曜日から11月の第2土曜日を「親子ふれあいキャンペーン」週間とし、親子のふれあい活動を勧めています。

幼稚園・保育園、小学校は親子読書。中学校は読書だけに限らず、お手伝いや親子でのウォーキング等、工夫ある取組を行っています。

読書カレンダーには、読んだ日にシールを貼ることになっています。親子で楽しみながら取り組んでください。



4 リーフレットの配付

「これでばっちり朝ごはんー『早寝・早起き・朝ごはん』のすすめ」「すいみんの『オアシス』」「家庭・園・学校がともに育ち合うための手引き」も配付しています。

小 中 接 続 部

1 サマースクール

小学校6年生と中学生の希望者が、夏休み下旬に、中学校の教室で勉強を行います。夏休みの宿題やわからないところを、地域の講師や、阿久比高校生が教えてくれます。

特に、小学校6年生は来年入学することになる中学校1年生の教室で、中学校と同じ50分を単位として学習します。



サマースクール

2 部活動体験・見学

冬休みに小学校6年生が部活動を体験・見学し、中学校生活と部活動に期待がもてるようにと願い、実施しています。複数の部活動に参加することも、1つの部活動に複数回参加することもできます。



卓球部の体験

3 中学校の先輩の話を聞く会

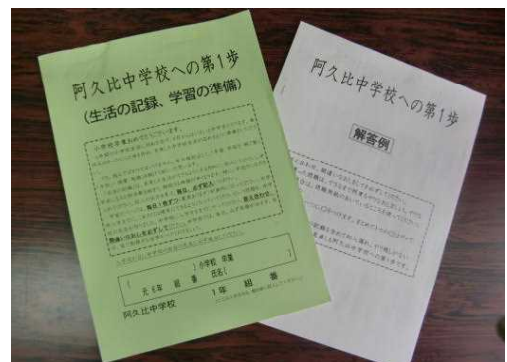
中学校3年生が出身小学校に出向き、6年生に中学校生活や部活動、中学校での勉強の仕方などについて話をします。



6年生に話をする中学生

4 阿久比中学校への第一歩

小学校卒業前の阿久比中学校入学予定児童に、阿久比中学校の校長先生から「阿久比中学校への第1歩」を配ります。これにより、規則正しい生活習慣・学習習慣の継続や、小学校の学習内容の定着を図ります。



幼保小接続部

1 町一斉幼保小交流会など

11月2日の「あぐい教育の日」の前後に町内の幼稚園・保育園・小学校が一斉に交流会を開催しています。この日は、年長児が小学校を訪れ、1年生児童と交流会を行います。

2月に行われる入学説明会でも、このような交流会を実施しています。



園児の前で楽器演奏

2 中学生との交流

10～11月には、中学校2年生が家庭科の授業で、幼稚園・保育園を訪れ、園児と一緒にいろいろな活動을します。また、中学校3年生は卒業の時期が来ると、自分の出身の幼稚園・保育園を訪れ、清掃ボランティアを行います。当時の園の先生たちも大きく成長した中学生に会うのを楽しみにしています。



中学生と園児の交流

3 「めざす6歳児像」・「子育て10か条」等の配付

幼保小接続部では、家庭での子育てを応援するため、以下のものを配付しています。

- ・「阿久比町めざす子ども像」（めざす6歳児像）
- ・「子育て10か条」
- ・「これでバッチリエんぴつのもちかた」

えんぴつが上手に使えるようになるために、幼稚園・保育園の年長児と、小学校の1年生に、三角鉛筆も配付しています。

